

ほっとコラム



幼稚園・保育所(園)・認定こども園で大事にしたい子育ての支援

幼児教育アドバイザー 塩崎 政江

コロナ禍で「第一に命を守る、次は経済対策」と動いている中、幼児教育関係者は「感染対策をしながらも、人と関わる体験をさせたい」と考えているのではないのでしょうか。それは、「めぶく第3版」にもあるように、これから生きていくために必要な社会性や協同性等が一番育ちやすい時期であることを知っているからです。

子育て支援も「経済的負担の軽減、女性の労働力確保」が国の施策として重視されている中で、先生方は「親が安心して子どもに向き合い、親でよかった、子育ては楽しいと感じられるように支援したい」と考えているのではないのでしょうか。親子関係が安定していれば子どもは自律していくからです。

ここでは、保育の現場で在園児の親への子育ての支援を考えてみましょう。

○親の理解者になること

これまでも少子化、核家族化で、子育てが孤立しがちでしたが、コロナ禍で外出自粛、ママ友と会う機会が減る、園の先生にも話せない、相談しにくいなど、より悩みが深刻化しストレスも高まっています。これまで以上に誰かとつながりたい、話をしたいと思っている親の気持ちに、保育の専門家として寄り添ってほしいと思います。子ども理解から始める保育を実践している先生方ですから、一人一人の親の実情にあわせて思いや悩みを受け止めて、積極的に関わっていただきたいと思います。待ちの姿勢ではなく、どのように打って出るか。それが今、問われています。

○子どもの育ちを具体的に伝えること

親として一番うれしいのは、わが子の成長を感じたり、わが子がほめられたりするときではないのでしょうか。以前は、わが子の姿を見た他者から「すごいね」「やさしいね」などと言われたり、わが子が友達と接している姿から成長を感じたりしていましたが、そのような機会が少なくなっています。先生方は保育の中で様々な成長を感じるでしょうが、集団の中で過ごす姿を見ることが少ない親には、わが子の成長はこれまで以上に見えにくいものです。親にわが子の成長を感じてもらえるにはどのように伝えたらよいか、伝え方の工夫が求められています。

家庭における子育てが基本ではありますが、周りの人が協働していくべきです。親は周りからの十分な支えがあり、子どもと向き合う時間が保証されることによって、子育てを楽しむことができるようになります。保育の現場では、親が安心して相談でき、親としての自信や自覚が持てるような子育ての支援を推進したいものです。

